

残機

菊池亮太

路地裏のおじさんから残機を買った
5個セット、1600円
これで5回まで死ねるならお得だ
おじさんは言った
「雑に扱うなよ」

残機..5

登校中
転がるサッカーボールが視界の端に映る
それを追いかける子供と
スピード違反の乗用車
どうせ死んでも生き返るんだから
助けられるはずだ
子供を庇って乗用車に撥ねられた
燃えるような激痛の中
眠るように意識が落ちる
目を覚ますとそこは教室
催眠術のような日本史の授業中
周囲を見回したら教師に睨まれ
居眠りをしていた罰として廊下に立たされた

残機..4

帰り道

制服を着た男子数人が
同じ制服を着た男子を殴っていた
仲裁に入ると逆上され
ありったけの力で殴られる
どうせ死んでも生き返るんだから
大事にしてやろう
バランスを崩したフリをして
縁石に思いつきり頭をぶつけた
加害者たちの狼狽をBGMに
眠るように意識が落ちる
目を覚ますとそこは自宅の布団
時計を見ると22時過ぎ
夕食を食いそこねてしまった

残機..3

朝食の後

突如激しい腹痛に襲われる
ゴミ箱に捨てたヨーグルトの容器を見ると
消費期限が切れていた
どうせ死んでも生き返るんだから
この痛みから逃れたい
台所まで這って進み
包丁で自らの腹を捌いた
更なる激痛に悶えながら
眠るように意識が落ちる
目を覚ますとそこは自宅のソファ
腹の痛みは既に治まっていた

面倒だったからそのまま学校は休んだ

残機…2

休み時間

友人数人と軽口を叩きあっている

そのうちの一人から「死ね」と言われる

どうせ死んでも生き返るんだから

試しにここで本当に死んでみたら

どんな反応をされるんだろう

二つ返事で了承して

窓を開け迷いなく身を投げる

関係ないクラスメイトの耳を劈くような悲鳴を背に

眠るように意識が落ちる

目を覚ますとそこは保健室のベッド

周囲に誰の姿もなく

友人からの連絡もなし

どうやら生き返っているのではなく

全てなかったことになっているらしい

期待外れだ

残機…1

退屈な授業中

眠気と格闘していると

突如教師から指名される

聞いていないものを答えられるはずがない

どうせ死んでも生き返るんだから

面倒なことはなかったことにしよう

教師からの問いに答えることもなく
自らの舌を噛み切った
素っ頓狂な教師の顔に吹き出しながら
眠るように意識が落ちる
目を覚ますとそこは教室
既に日が暮れ、クラスメイトの姿はない
他の面倒な授業もスキップできてラッキー

残機…0

休日の大通り
クラスで一際目を惹くあの子と
やっとの思いで取り付けた約束
鼻歌交じりに交差点に入る
瞬間、身体に鈍痛
吹き飛んだ先に広がる赤
悲鳴
微かに見えた歩行者信号の赤
すっかり慣れた死の感覚
どうせ死んでも生き返るんだから
何とかなるだろう
すっかり慣れた死の感覚の中
眠るように意識が落ちる

その寸前
思い出す
もう残機はない
もう生き返らない
もうなかったことにはできない

迫り来る

感じたことのなかった

死の恐怖

死の恐怖

死の恐怖！

死にたくない

死にたくない

あんなことに使わなければよかった

薄れゆく意識の中

路地裏のおじさんの声が聞こえた

気がした

「雑に扱うなよ」